

○ 推定値の標本誤差

標本誤差の算出方法は、副標本方式により行っている。

副標本は、調査開始時期（4月、7月、10月及び翌年1月）により4組とし、この4組の副標本ごとに算出された推定値を用いて、次式により算出している。

$$\hat{\sigma}_X = \sqrt{\frac{1}{n(n-1)} \sum_{g=1}^n (\hat{X}_g - \bar{\hat{X}})^2}$$

n : 4 (副標本の数)

$\hat{\sigma}_X$: X 項目の標準誤差

g : 副標本の番号 ($g=1,2,3,4$)

\hat{X}_g : g 副標本, X 項目の推定値

$\bar{\hat{X}}$: X 項目の推定値 (\hat{X}_g の平均値)

1 事業所当たり売上高の標準誤差率は、次表のとおりである。

表 産業別 1 事業所当たり売上高の標準誤差率 (%)

	動向編		構造編
	四半期	年度	
製造業	6.2	5.5	5.7
卸売業、小売業	5.3	4.4	4.8
宿泊業、飲食サービス業	4.2	3.7	4.0
サービス業	4.4	3.1	4.9

注 1. 動向編の標準誤差率について

- ・ 四半期は、直近 5 年分（平成 26 年度～30 年度分）の各四半期の標準誤差率から四半期ごとの平均を算出し、算出した四半期ごとの値を更に平均した値
- ・ 年度は、平成 26 年～30 年度の標準誤差率を平均した値

2. 構造編の標準誤差率は、平成 26 年～30 年の標準誤差率を平均した値